

富山地方鉄道鉄道線のあり方検討会 第3回不二越上滝線分科会 議事概要

1. 日時・場所

日時：令和7年12月1日（月）17：15～17：55

場所：富山市役所東館8階 大会議室

2. 出席者

所 属	役 職	氏 名	備 考
富山県	知 事	新田 八朗	
富山市	市 長	藤井 裕久	
立山町	町 長	舟橋 貴之	
富山地方鉄道(株)	代表取締役社長	中田 邦彦	
国土交通省 北陸信越運輸局	鉄道部長	秋山 敬介	代理出席：地方鉄道再構築推進調整官 渡邊 毅士

3. 議事概要

(1) 不二越上滝線のあり方に関する調査結果について

- ・最終回答数は7,945件（回答率約27%）。
- ・路線の必要性およびサービス向上のための行政支出について、約9割が肯定的。
- ・10代の約6割、20代の約3割が週4日以上利用しており、若年層の通学手段として定着している。
- ・維持活性化に関して重要視する項目が改善された場合、約6割の方が利用が増えると回答しており、利便性向上による新規利用者の掘り起こしが見込める。

(2) 不二越上滝線の再構築について

<現状と課題>

- ・市内他路線に比べ運行頻度が低く、車両や駅舎の老朽化が顕著である。

<ポテンシャル>

- ・沿線人口密度は富山港線を上回っており、若い世代の割合も多い。
- ・一方で、駅勢圏（500m）の人口に対する利用率は、地鉄本線に対して20ポイントほど低い。
- ・これらから、不二越上滝線は高いポテンシャルを有しており、まちづくりと一体となった活性化プロジェクトとして推進したい。

<事業構造の変更>

- ・比較検討した結果、初期費用や手続きの負担が少なく、事業開始までの時間を短縮でき、協定等を結ぶことにより、官民が連携して取り組むことができる「富山型官民連携方式（改良型みなし上下分離）」が望ましい。

<利便性向上施策と概算事業費>

- ・利便性向上施策として、高頻度運行、新駅の設置及び駅施設の改良、南富山駅の結節機能の強化、新たな技術の導入（キャッシュレス支払方法等）、車両の更新、既存設備の改良（線路設備、電路設備等）を計画している。
- ・これらを実現するための概算事業費の最大想定試算として、今後 10 年間で、ソフト事業に約 15 億円、ハード事業に約 198 億円、総額で約 213 億円を見込んでおり、これとは別に、みなし上下分離方式を想定した維持管理費用として、10 年間で約 14 億円を見込む。

(3) 意見交換

- ・県の地域交通戦略では、目指すべき姿を実現するためのポイントとして、駅を中心としたまちづくりとの連携を掲げており、不二越上滝線の活性化プロジェクトは、まさに県の戦略に沿った方向で検討が進んでいると受け止めている。
- ・必要となる経費と行政負担を明確にし、議会や県民に説明して理解を得ることが不可欠。事業費の精査や事業者も含めた関係者の費用負担について、さらに協議が必要。
- ・事業構造の変更について、このような状況下で、「富山型官民連携方式」が望ましいと評価をするには、まだ少し早い。
- ・再構築事業には多額の公費の投入が想定されることから、もう少し時間をかけて丁寧に議論を深める必要がある。
- ・これまでスピード感を持って進めてきたが、各議会や住民に対して説明し理解を得るため、早期の計画策定にこだわらず、議論を深める必要がある。
- ・増便のためには運転手の確保が不可欠であるが、現在でも 10 人近い欠員状態にある。スケジュールがある程度固まった段階で、要員の確保に努めていく必要がある。
- ・官民で成果を分け合うインセンティブについては、立山線にとっても参考になる事例であるため参考にしていきたい。
- ・それぞれの議会における各議員の意見は、地元の皆様のご意見を代弁するものであり、それを持ち寄ってさらに丁寧な議論をすることも必要である。